

池田名誉会長

# 光の言葉 幸福の曲

2・11

戸田先生生誕の日

## 地球民族主義よ 輝け

青から漆黒に移りゆく空。夕日を浴びて、赤く染まる雲。そこに、悠然と月天子が浮かんでいた。1999年（平成11年）4月、池田名誉会長が東京・八王子市で撮った1枚である。

アメリカ、カナダ、ドイツ、香

港、ネパールなど、さらに機内からも、平和旅の途上で、月の姿を数多くカメラに収めてきた。

「雲の井に 月こそ見んと 願いてし アジアの民に 日をぞ送らん」と戸田第2代会長は詠んだ。世界に平和の大哲学を送らん

と、「地球民族主義」の指標を掲げた恩師——。その実現のために名誉会長は駆けてきた。

2月11日は、戸田会長の生誕115周年。一つの月を眺める一つの「地球民族」へ、人類を高めるために、挑戦を誓い合いたい。

恩師は、  
世界の深刻な対立を止揚する  
平和と共生の指標として、  
「地球民族主義」を提唱された。  
それは、まさに  
「人間という原点に立ち返れ！」  
「世界市民の精神に目覚めよ！」  
との警世の叫びである。

「境涯」を変えなければいけない。  
人間を取り巻くものは変わったのに  
人間だけが変わっていない。  
法華經の意義は、  
そうした未熟な人類を、  
賢き人類へと  
変革させていくことにある。



SGI研修会で来日した参加者に励ましを送る池田名誉会長。北中南米、オセアニア、欧州、アジア、アフリカの『地球家族』が朗らかに（1999年7月、東京・信濃町の聖教新聞本社で）

「仏界」という、  
一人一人の内にある  
最高の境涯を開発することにある。

個人の人間関係も  
近隣の交際も  
さらにまた、国際的な関係も、  
会って、対話し、  
互いを知ることが  
一切の基本である。  
人と会う勇氣、  
語る勇氣をもつことだ！  
「対話の選択」そのものが  
平和の勝利であり、  
人間性の勝利であるからだ。

暴力に暴力で抗するのはたやすい。  
しかし、それでは  
悪の輪廻は止まらない。  
また暴力に泣き寝入りしていても  
悪を助長する。  
そのどちらでもなく、  
人間の尊厳を侵す  
あらゆる暴力に対して、  
非暴力の強靱なる信念で  
妥協なく戦い抜いていく――  
そこに仏教の実践がある。  
こうした勇者を育て、  
非暴力の精神土壌を耕していく。  
そこにこそ  
恒久平和の基盤が  
できあがっていく。